

私の日本語辞典《2019年6月提案》

(NHK エデュケーショナル)

放送：(土) 15:15～15:45 (R2)

再放送：(翌日曜) 23:05～23:35 (R2)

先人が残した治水の名言に学ぶ

富士常葉大学名誉教授 竹林 征三

<ねらい>

昔から、大雨や台風による河川の氾濫、浸水などの被害に悩まされてきた日本。近年では、さらに大型台風や津波などによる大規模災害も増加傾向にある。今回は、「治水史」の観点から、神話に属するスサノオノミコト・ヤマタノオロチ伝説に始まり、現代の巨大災害の世紀に至るまで、過去に残された文献資料などをもとに考えてみたい。竹林征三さんは、京都大学工学部土木工学科大学院を修了後、当時の建設省でダム部長、環境部長などを歴任、その後、富士常葉大学で教鞭をとってきた治水の専門家である。著書『日本の治水史』から、過去の治水事業の成功・失敗例を取り上げ、当事者の辛苦から生まれた様々な名言をもとに、治水に関して培ってきた知恵を解説していただく。

放送は5回シリーズ。

聞き手：NHK 放送研修センター日本語センター 秋山和平アナウンサー

<出演者プロフィール>

- ◆竹林征三 たけばやし せいぞう 富士常葉大学名誉教授、風土工学デザイン研究所会長
- ◆1943年生まれ。1969年京都大学大学院（土木工学）修了。当時の建設省入省後、ダム部長、環境部長などを歴任。2000年から富士常葉大学環境防災学部教授、2011年、風土工学デザイン研究所理事長就任、現在は同研究所会長として風土工学の普及・啓発活動を行う。
- ◆主な著書など：『ダムのはなし』技報堂出版（1996年）
『風土工学事始』土木学会山梨会（1997年）
『ダムは本当に不要なのか—国家百年の計からみた真実』近代科学社（2010年）
『ダムと堤防—治水・現場からの検証』鹿島出版会（2011年）
『物語 日本の治水史』鹿島出版会（2017年） など多数

<主な内容>

- ①竹林さんが携わってきた仕事の現場（ダム・治水事業）からみえてきたもの
- ②治水意識の揺籃期（治水をめぐる意識の発生）
- ③治水事業の発展期（戦国時代の治水事業・・・武田信玄、加藤清正らを例に）
- ④治水事業の成熟期（京都の疎水、新潟・大河津分水、「態と切り」など）
- ⑤治水事業のこれから
- ⑥治水名言に秘められた教訓など

放送日（土）2019年6月1日、8日、15日、22日、29日

再放送（日）2019年6月2日、9日、16日、23日、30日

担当：文化福祉番組 堀川 CP（2907）／NED 特集文化部 平野（9-182-72141）